

◇二〇二二年度高岡教区臨時教区会報告

去る六月三〇日（金）、西本願寺高岡会館礼拝堂において二〇二三（令和五）年度臨時教区会が開催され、令和四年度高岡教区各種会計決算について慎重審議の上、可決承認されました。令和四年度決算の内容について、教区一般会計の総額では次年度に繰越される剰余金が千三百四十九万七千八百五十八円と、前年度比で百二十万九千九百四十八円の減額となっております。これは一昨年度に比べ収入はほぼ同額となっておりますが、コロナウイルス感染拡大の影響が少し和らいだこともあり、支出の実践運動推進費・各種助成費が増えたことや、教務所費の人員費・出張交通費等が増となり、支出全体で百二十万円ほどの増額となったことによるものです。

歳入では、「教区賦課金」が寺院解散や全体的に僧侶に賦課される第二種賦課金が減少傾向にあるため一昨年度より三〇万円弱の減額となっております。「教務所事務補助金」では宗派からの補助金が九万円以上の増額となっているほか、「各種助成金」で親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要団体参拝助成金や連区協議会や連区少年連盟連絡協議会などの連区行事の高岡教区担当で開催されたことによる助成金、各種懇志教区地方事務費が増えたため五十二万円以上の増額となっております。「願記手数料」で昨年度は住職任命申請の願記が多かったため四〇万円増の予算補正を行いました。その補正予算より四万六千増の決算となりました。「雑収入」では新年会や千鳥ヶ淵法要団体参拝・各種研修会の参加費が見込めないことから補正予算で百二十八円ほどを減額にしていたために、決算では七万円ほどの増額となりました。

歳出では、「実践運動推進費」で、千鳥ヶ淵法要団体参拝や児童念仏奉仕団等が中止になったことや、実践運動教区委員研修会の規模縮小、得度講習会・組勤式講習会等が行われなかったことによる経費の減額があったために六十五万円以上の減額となりました。そして昨年度は一昨年度に引き続き「寺院教化

助成費」という費目を設置し、教区賦課金の5%を全寺院に教化助成ということで交付をさせていただきました。「会議費」では教区会費・組長会費・諸会議費で会合教減によってそれぞれ予算額より減額となっております。「教務所費」では、「人員費」の社会保険料を増額した予算補正をしていたこともあり二十四万円以上の減額となりました。また「事務費」でも消耗品費・慶弔費・諸雑費・伝道車費などがすべて減額となり七十七万円以上の減となりました。なお、特別会計の『会館運営費』『振興推進金庫』『法要事務所会計』へは予算通りの回金をしております。

次に教区特別会計の決算ですが、『平衡資金積立会計』『転退職積立会計』は預金利息のみの変動となっております。『災害対策会計』では、トルコ・シリア地震への対応について諮るために委員会を開催しており、その開催経費を支出しております。「教化資料作成費」では、次年度繰越見込金が二十万円以上の増額となっておりますが、これは当初予算より多くの書籍を購入いただいたことで増額となっております。『子ども・若者ご縁づくり推進費会計』では、宗派からの助成金交付の対象となるような行事ができなかったため、歳入の宗派助成金も歳出の推進費も共に無しとなっております。『免物会計』は、収入の免物交付にかかる「免物冥加」も、支出の「本山委託事務費」も年度当初予算よりも百三十万円を減額する予算補正を行っており、そのため「免物冥加」の収入が三十二万円以上の増額となっております。本山委託事務費も八万七千円以上の増額となっております。それを歳出の「回金」の費目で一般歳計に回金しています。「振興推進金庫」については、一般会計からの回金と預金利息の変動となっております。『法要事務所会計』については、令和五年度の法要に向けて会合を行っており、その経費が主な支出となっております。以上が令和四年度教区各種会計決算の概要です。

◇一般財団法人教学財団理事会・評議員会報告

去る六月六日及び二十六日、教学財団理事会及び評議員会が開催され、二〇二二年度の事業報告及び決算が慎重審議の上、承認されました。

二〇二二年度高岡教区教学財団決算について、まず、事業活動収入の部では、受取会費において、教学研究室賛助会費を多数の方より納入いただきました。また聖典セミナーを再開したことにより講座受講料収入がありました。そして補助金等収入として、教区からの財団運営助成金として三百万円を収納しました。

次に、事業活動支出では、会館駐車場の車止め白線引き直し工事費、会館2階LAN配線工事費を経常の修繕以外で修繕費として支出しております。また、諸謝金支出では公開講座の講師礼、再開した聖典セミナーの講師礼等、各種講師礼等を支出しました。以上が、特筆すべき二〇二二年度決算の内容です。【別紙にて教区会計決算書及び財団決算書を同封しております。】

◆教区親鸞聖人850年・立教開宗800年慶讃法要勤修

去る六月十七日(土)、西本願寺高岡会館を会場に教区の「親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要」が勤修された。これは親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年をお迎えするにあたり、ご消息に示されている「み教えに生かされ、いよいよお念仏を喜び、すべてのいのちあるものが、お互いに心を通い合わせて生きていけるような社会の実現」をめざして、教区役職者・教化団体役職者をはじめ全寺院に案内がなされて勤められたもの。

午後一時三〇分からの第一部では、最初に森尾淳章教務所長から本願寺派総長からの「慶讃法要に際してのご挨拶」が披露されたあと、教務所長が導師、法要常任委員会委員が結果となって正信偈のお勤めがなされた。その後、記念布教として宗派より派遣された特命布教使の山田教尚師(東海教区鈴鹿組存仁寺)より、親鸞聖人のご誕生の意義についてのお話をいただいた。

第二部の記念行事では、教区の方々との結びつきを改めて深めてもらいたいということで、さくら保育園・高岡龍谷高等学校・仏教婦人会連盟コーラス部「瑠璃の響き」のそれぞれの世代の皆さんに出演していただいた。最初のさくら保育園の仏讃では、園児約三〇名ほどが献灯を行ったあと、大きな

声で仏教讃歌を歌ってもらい、一生懸命歌っている園児の姿に参拝者からは微笑みがこぼれていた。続いて龍谷高等学校の女生徒約二〇名によるヨサコイの演舞があり、元氣一杯に踊る姿から、「見ているこちらが元氣をもらえた」という声が聞かれた。そして最後に瑠璃の響きの皆さんによるコーラスが披露されるとともに、参拝者も一緒に仏教讃歌を歌って和やかなひと時を過ごした。

▽トルコ・シリア地震緊急支援募金送金完了

高岡教区災害対策委員会の議により、教区内ご寺院の皆さまにご依頼し六月末日まで募集いたしました「トルコ・シリア地震緊急支援募金」については、九十四ヶ寺さまより、合計九十九万九千四百四十八円(振込手数料を除く)の収納がありました。つきましては七月四日付、宗派たすけあい募金へ送金致しました。皆さまのご協力、誠にありがとうございました。

□高岡教区少年連盟役員改選について

会長 清水 了涉 (真光寺日校 砺波組真光寺)
副会長 明神 慈子 (覚正寺土曜子供会 新湊組覚正寺)
副会長 伏間 彰彦 (妙万寺日校 射水組妙万寺)

全戦没者を悼み平和を願うつどい 2023

日時 8月3日(木)午後1時30分~4時

テーマ「テロ」と「ものが 言えない時代」

~再び戦争の道を歩まないために~

内容 第1部 全戦没者追悼のつどい

第2部 平和を願うつどい

講師 中島岳志さん

(政治学者 東京工業大学リベラルアーツ研究教育院副院長)

演題 「日本政治はどこへ向かっているのか」

詳細は同封のチラシを参照ください。
各寺院宛にチケット3枚(招待券含)が送られていますのでご利用ください。

また YouTube で「浄土真宗本願寺派高岡教区教務所」と検索して頂くと、8月7日より当日の様子が配信されております。約1ヶ月視聴可能。

◆御同朋の社会をめざす運動のコーナー

「御同朋の社会をめざす運動」教区委員研修会報告

去る六月八日、西本願寺高岡会館において、「御同朋の社会をめざす運動」教区委員研修会が「同朋教団の再生をめざしてー社会の変容の中で『大切にすべきもの』とは?ー」を研修テーマに開催されました。

三年半にわたるコロナ禍は、お寺をとりまく社会においても大きな変化をもたらしました。これまで「常識」とされてきたことが通用しなくなり、いわゆる「宗教離れ」が顕著になる中で、これからのお寺が何を大切にしていくかが問われているように思います。そこで、今年二月に報告された第十一回宗勢基本調査(二〇二一年)、およびその比較対象として前回調査(二〇一五年)、また高岡教区「新型コロナウイルスの流行に伴う組活動・寺院活動アンケート」(二〇二一年)を手掛かりに、今後の方向性を共に考えることを目的とし、今テーマが企画されました。

最初に濱野信宏さん(同朋企画専門委員長)から問題提起があり、お寺をとりまく環境について、過去・現在・未来にわたり分析されました。今までは家制度や寺檀制度といった遺制に支えられてきたお寺ですが、遺制が瓦解しつつある現在、同じく瓦解しつつあるお寺社会の窮状から、お寺はこれまで何を大切にしてきたのか、大切にすべきでないことを大切にしてきたのではないかと提言されました。また未来に向けて、教区アンケートの集計分析から、「これまでの慣習に基づく」あり方を大切にしていきたいとする割合が高い一方で、人々の苦しみの具体的な原因となる社会問題を大切にしていきたいとする割合が低く、こうした調査やアンケートがこれからのお寺のあり方を模索していく一つの足掛かりになるのではと述べられました。

それを受けた話し合い法座では、「門信徒との信頼関係を築いていくには、私たち自身にもたくさん課題がある」「今までお寺を支えてきたも

のとしてお念仏をよるこぶ心もあつたはずだが、それを私たちは本当に大切にしてきたのか?」「お寺主体の目線になってしまいがち。門信徒の目線に立つには、まずは社会に目を向けることから」「コロナ禍を理由に、楽な方に流されていたのでは?」等の意見が出されました。

最後に講師の神戸修さん(同和教育振興会運営事業運営委員 大阪教区)より助言があり、コロナ禍における貧困・虐待・孤独死等の社会問題を具体例に、現在は不平等・格差がより広がり、さらに固定化してきていると指摘されました。固定化された格差は、非常に強固で変わりにくいものであり、それは階級化・身分化ともいえる状況です。

また、世界中で広がったコロナ差別を例に挙げられ、ケガレ意識による差別は科学的な知識を越えたところで発生しているとも指摘されました。差別の背景として、スケープゴート(ある集団にストレスが発生した時、特定の人に責任を押し付け、排斥・排除することで、あたかもその集団にストレスがないようにしていく。その犠牲者のことを指す)や群集心理(無批判に伝えてしまう・すぐ納得してしまう・責任感がない)等を紹介され、差別の社会を作りだしているのは、私たち自身であることと確認されました。

人に尊厳のない社会は、人を差別している社会です。差別は世界を分断し、バラバラにしてしまいます。宗教 (Religion) の語源は、ラテン語 (Religare) に由来し、その意味は「再び統合する、つなげる」なのだど講師は助言くださいました。

研修会を通して、私たちの課題が浮かび上がってきます。「大切にすべきもの」とは何なのか? 厳しい現実を簡単に答えをくれるわけではありませんが、一つ一つ課題を明らかにしながら、これからもお寺の未来とその役割を共に模索していきたいと思えます。

一 静

【法座】

寺 ()

とは

映、

上

で

【同朋企画専門委員 福田慶隆】

2 ど

ラジオ放送～西本願寺の時間～

⇒みほとけとともに⇐

北日本放送（KNB）・738kHz.

□第2・4日曜日（富山・高岡制作）午前6:00～6:10

●8月13日（日）

圓山望師

（高岡教区）

●8月20日（日）

篠島敏信師

（高岡教区）

※西本願寺が主催し「北日本放送（KNB）」にて放送してまいりました毎週土曜日午前5時35分からの「西本願寺の時間」は、2022年9月末をもって放送終了となりました。

また「高岡教区及び富山教区が主催し「北日本放送（KNB）」にて放送しております毎週日曜日午前6時からの「西本願寺の時間」は、今後も放送いたします。

西本願寺では「動画配信サイトを設置し法話等を配信しております。ご視聴ください。」

<https://broadcast.hongwanji.or.jp/>

30	研修会 連区布教使研修会（福井）
----	---------------------